

小川町とその周辺の ごみ処理の実態

2016年1月23日
環境総合研究所
顧問 池田 こみち

Copyright © 環境総合研究所 池田こみち
無断転載をお断りします。

新たな組合を設立 (平成27年4月1日) 埼玉中部資源循環組合

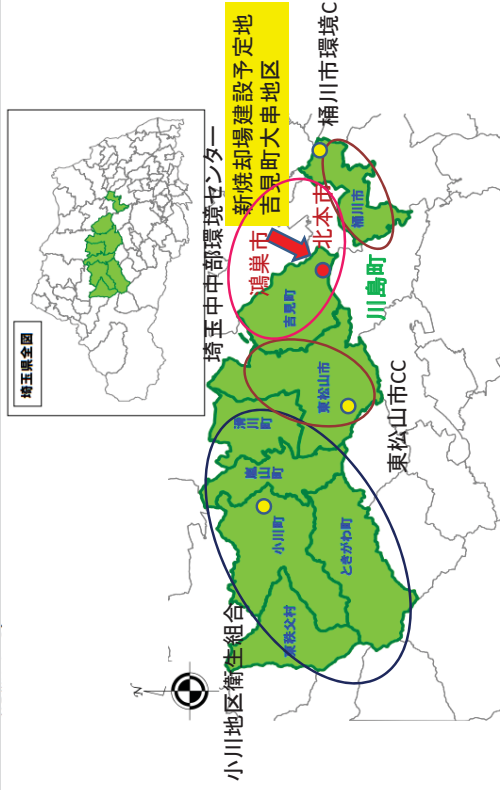


図 2.1 構成市町村の位置

新しいごみ処理施設建設へ

- 現在、ごみ処理は五ヶ町村が構成組合員である「小川地区衛生組合」が行っている。焼却炉は小川町内(中爪地区)
- 五ヶ町村:滑川町・嵐山町・小川町・ときがわ町・東秩父村
- 埼玉県ごみ処理広域化計画において、ごみ処理の効率化、コスト削減の観点からさらなる広域処理が求められていた。
- 平成25年3月、埼玉中部広域清掃協議会を設立。
松山市(単独)、桶川市(単独)、小川地区衛生組合(5ヶ町村)、吉見町(鴻巣市・北本市の2市1町で埼玉中部環境保全組合)の4箇所の焼却炉を統合し、8市町村(2市・5町・1村)が共同でごみ処理を行うこととした。
- 平成26年3月、協議会として「一般廃棄物処理基本計画」を策定
平成27年4月、協議会が一部事務組合へ。
- 立地場所は吉見町とし、すでに地元説明会も実施済み。
- 今後、国への交付金申請、環境アセスメントの実施、実施計画策定へ

協議会の段階で新たな基本計画を 策定していった!

埼玉中部広域清掃協議会
ごみ処理基本計画

- ◆ 中間目標年:平成 30 年度
- ◆ 計画目標年:平成 35 年度

将来のごみ排出量(ごみ焼却量)の
設定目標(1人1日当たり家庭系
ごみ量(g/人・日))を平成35年度
に平成20年度比8%減となるよう
に設定した。

平成35年度目標値:608.9g

平成26年3月

東松山市が全体の38%を占める

③ 構成市町村別の総ごみ排出量

構成市町村別の総ごみ排出量の推移は図3.3に示すとおりである。ごみ排出量が最も多い市町村は東松山市であり、全体の約38% (31,595 t) を占めている (平成24年度実績)。

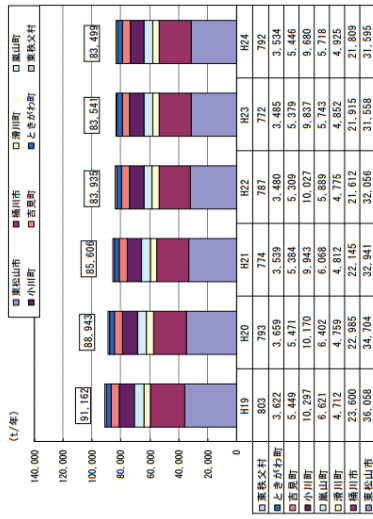
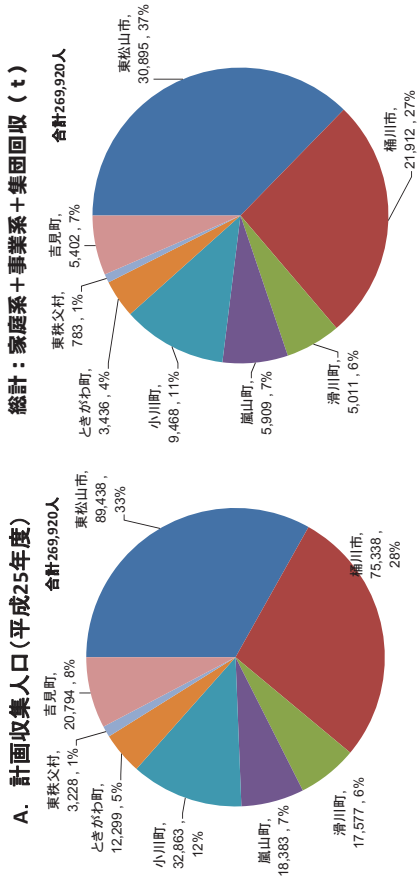


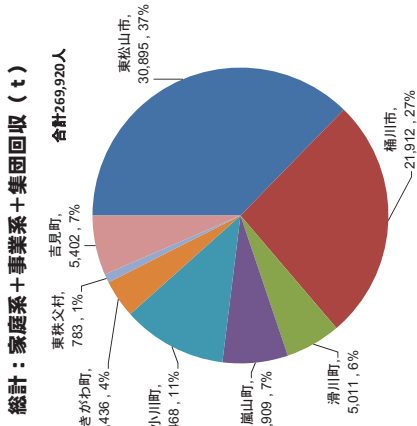
図 3.3 構成市町村別ごみ総排出量の推移

東松山市が全体の1/3以上を占める 平成25年度

A. 計画収集人口(平成25年度)



総計：家庭系+事業系+集団回収 (t)



新たなごみ焼却施設の建設へ！

新たなごみ焼却施設の建設へ！

経緯

- 平成26年12月 国土交通省の調査結果に基づき、東松山市に新たなごみ焼却施設の建設が決定。
- 平成27年 東松山市議会にて、施設の建設が承認された。
- 平成28年 施設の建設が完了し、稼働を開始した。

建設の経緯

- 東松山市は、ごみ焼却施設の建設を計画していた。
- 平成26年12月、国土交通省の調査結果に基づき、東松山市に新たなごみ焼却施設の建設が決定された。
- 平成27年、東松山市議会にて、施設の建設が承認された。
- 平成28年、施設の建設が完了し、稼働を開始した。

現在の焼却炉の状況は

小川町の焼却炉は、稼働率が低下している。これは、ごみ排出量の減少によるものである。また、焼却炉の稼働率を向上させるためには、ごみ排出量の増加が必要である。

新設焼却炉のメリット

- 稼働率の向上によるごみ処理量の増加。
- 環境への負荷の軽減。
- 地域の活性化によるごみ排出量の減少。

建設の進捗

平成28年12月、施設の建設が完了し、稼働を開始した。

建設の経緯

平成26年12月、国土交通省の調査結果に基づき、東松山市に新たなごみ焼却施設の建設が決定された。

建設の経緯

平成27年、東松山市議会にて、施設の建設が承認された。

建設の経緯

平成28年、施設の建設が完了し、稼働を開始した。

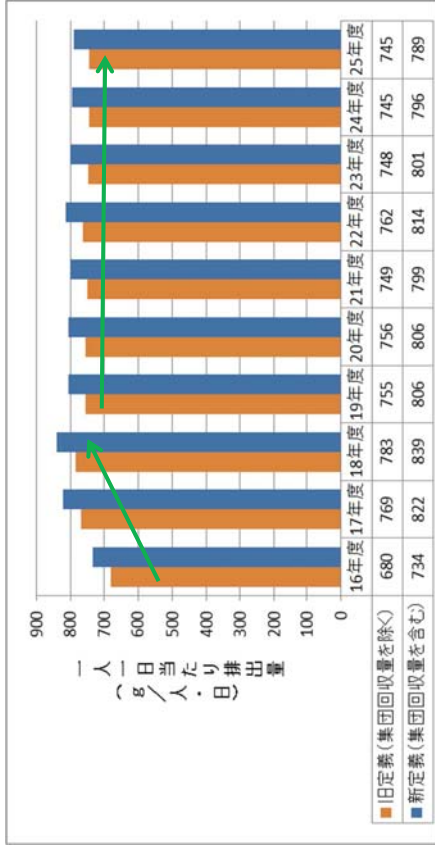
小川町のごみ排出量推移



- ・人口は10年で3,733人(約10%)減少。
- ・ごみの排出量(事業系+家庭系)は、18年度のピークから1,220トン(12%)減少。
- ・集団回収量は10年で184トン(約26%)も減少している。

出典：埼玉県Webサイト「ごみカルテ」ごみ処理量の推移＞平成25年度版より

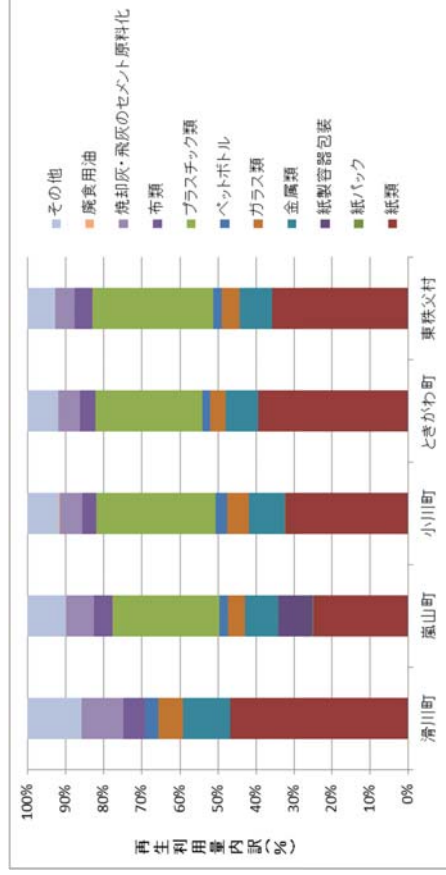
小川町のごみ排出原単位の推移 一人一日当たりの排出量



- 一人一日当たりのごみ排出量は、集団回収量を除いた場合あまり減少していない。
- ピークの18年度から38g(約5%)の減少。
- 集団回収量を含めた場合でも、50g(約6%)の減少に過ぎない。＝横ばい状態
- 集団回収量は10年で184トン(約26%)も減少している。

出典：埼玉県のWebサイト：ごみカルテ<処理量の推移>平成25年度版より

回収資源の内訳：量と割合

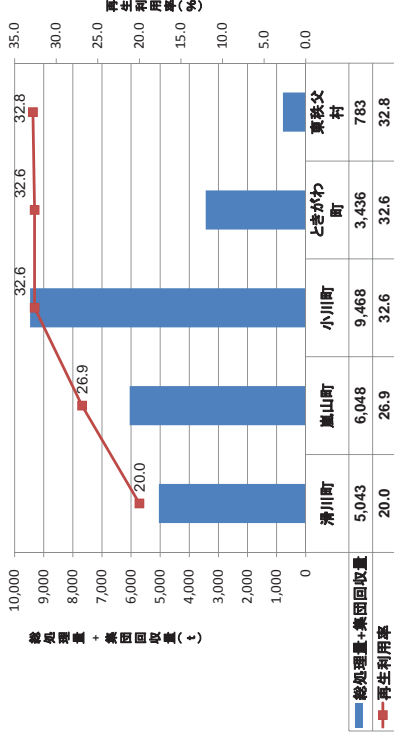


- 構成自治体によってリサイクルしているものが異なっている。
- 滑川町はプラスチック類を資源化していない。
- 紙バックや紙製容器包装類を集めているのは嵐山町。

出典：埼玉県のWebサイト：ごみカルテ<処理量の推移>平成25年度版より

組合構成自治体ごとのごみ量と資源化率

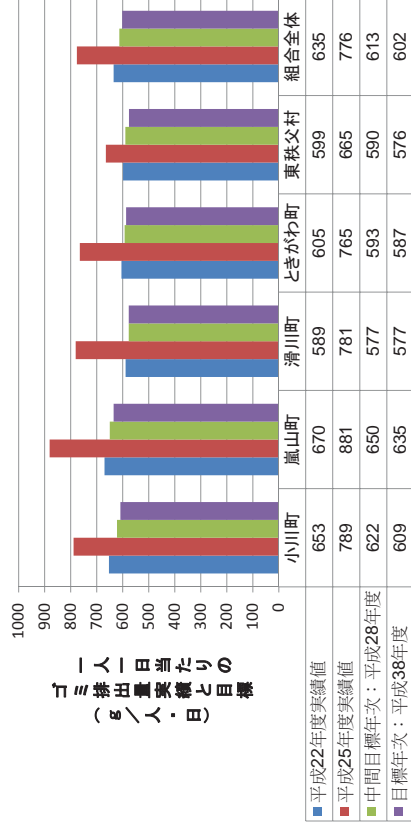
平成25年度



- ・資源化率(リサイクル率)は小川町・ときがわ町・東秩父村が32%超と高い。
- ・滑川町と嵐山町は30%に届いておらず、特に滑川町は国の平均より低い。

出典：埼玉県のWebサイト：ごみカルテ<処理量の推移>平成25年度版より

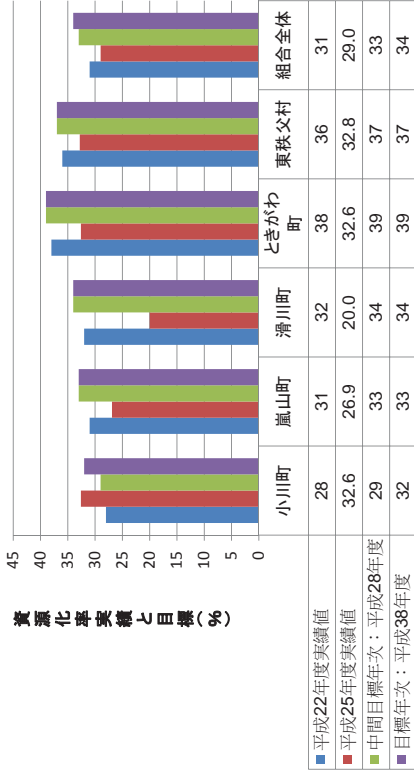
小川地区衛生組合現計画の目標と達成見込み：ごみ量



- 22年度の実績に対する中間目標、最終目標を示したが、25年度実績で既に28年度の目標を超過している。計画達成の見通しはどうか。
- しかし、すでに埼玉中部広域清掃協議会が新しい計画を策定しているのではこの計画は無効となってしまったが……

出典：小川地区衛生組合 提供資料より作成、25年度データは埼玉県資料より購入

小川地区衛生組合現計画の目標と達成見込み： 資源化率



- 22年度の実績に対する中間目標、最終目標を示したが、小川町以外は、25年度実績で既に28年度の目標を下回っている。計画達成の見通しはどうか。
- しかし、すでに埼玉中部広域清掃協議会が新しい計画を策定しているのでこの計画は無効となってしまったが……

出典：小川地区衛生組合 提供資料より作成、25年度データは埼玉県資料より挿入

小川地区衛生組合清掃工場の位置



出典：Google mapsより

小川地区衛生組合清掃工場の位置



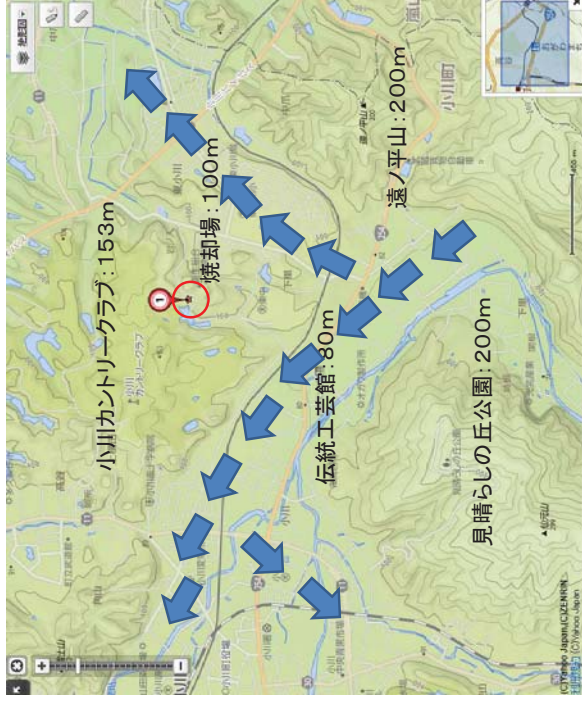
出典：Google mapsより

小川地区衛生組合清掃工場の周辺



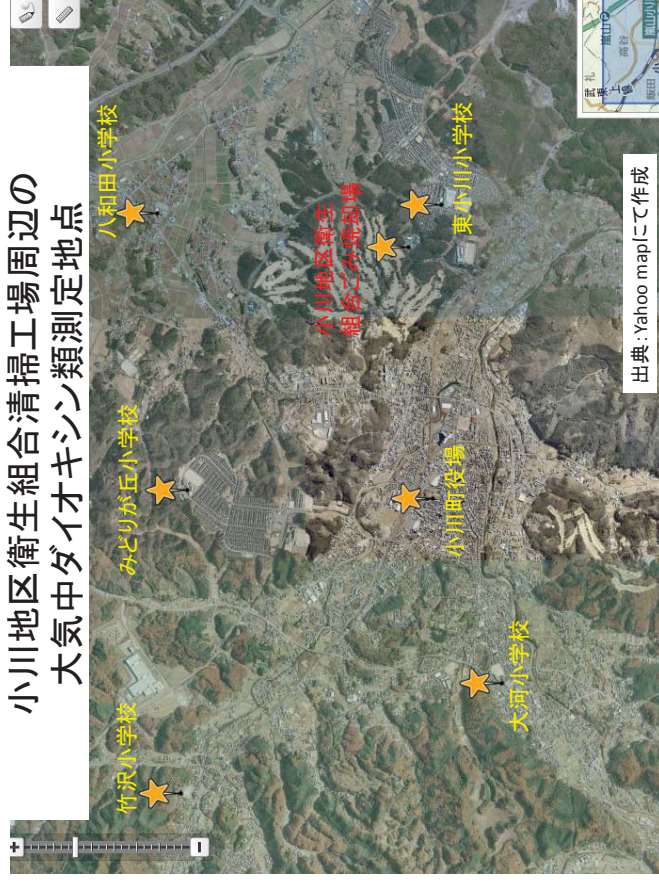
出典：Google mapsより

小川地区衛生組合清掃工場周辺の地形



出典：Yahoo mapより

小川地区衛生組合清掃工場周辺の 大気中ダイオキシン類測定地点



出典：Yahoo mapにて作成

小川地区衛生組合ごみ焼却場周辺の概要

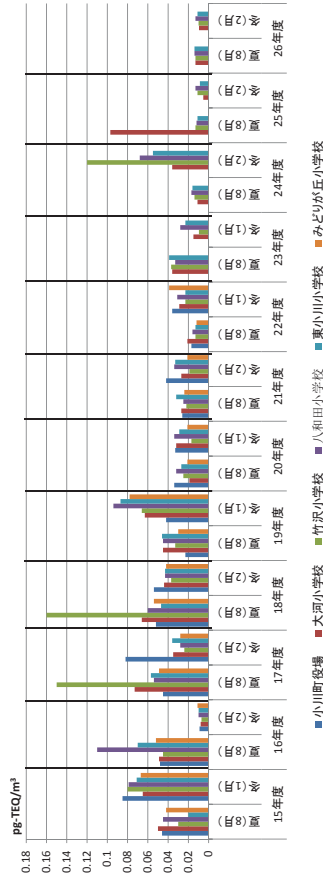
所在地：小川町大字中爪1681-1
 竣工年：昭和51年3月
 稼働開始：昭和51年7月1日
 改修年：平成14年3月
 処理能力：62トン/日
 (31トン×2炉体制)
 処理方式：連続燃焼式
 炉形式：ストーカー炉
 集塵機タイプ：バグフィルター
 余熱利用(発電、熱供給など)：無し
 煙突高：



小川地区衛生組合ごみ焼却場
(62t/日：昭和51年稼働)

出典：新ごみ処理施設整備構想 平成26年3月
 埼玉中部広域清掃協議会 より抜粋

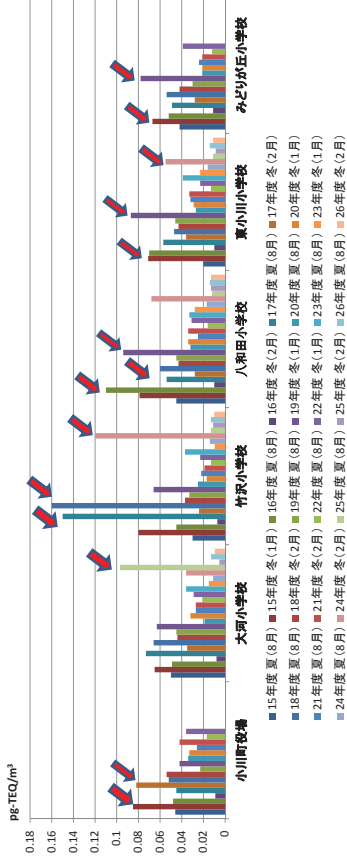
一般環境大気中のダイオキシン類濃度の推移 平成15年度～平成26年度



- ①市内6箇所で年2回(夏8月と冬1月か2月)、測定を行っている。
- ②平成23年度から小川町役場とみどりが丘小学校での測定を中止し4箇所となった。
- ③平成15年度～26年度の推移を見ると、次第に濃度は改善されている。
- ④環境基準(年間0.6pg-TEQ/m³)はすべての地点で達成している。
- ⑤夏と冬を比べると、冬の方が高い年、夏の方が高い年がある。
- ⑥24年度の冬が直近では特に高かった。
- ⑦25年度の夏、大河小学校が突出して高かった。

出典：小川町役場 環境保全課より

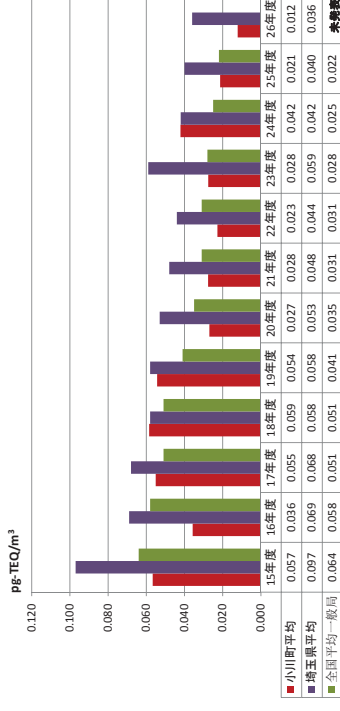
一般環境大気中のダイオキシン類濃度の推移 平成15年度～平成26年度



- ①小川町役場は冬が高い傾向。
- ②大河小学校は夏にも高い年があった。25年度の夏は特に高い。
- ③竹沢小学校は、夏に焼却炉の風下に位置するためか高濃度が多く検出されている。最近では、24年度の冬が高い。
- ④八和田小学校も夏に風下となり、高い時があるが、24年度の冬が高かった。
- ⑤焼却場に近い東小川小学校は、八和田小学校とともに19年度の冬に高かった。
- ⑥みどりが丘小学校も他と同程度の時が多いのに測定をやめたのは何故か。

出典：小川町役場 環境保全課より

一般環境大気中のダイオキシン類濃度推移の比較 小川町／埼玉県／全国：平成15年度～平成26年度



- ①15～16年度、小川町は埼玉県平均よりかなり低く、全国平均より僅かに低かった。
- ②17～18年度、小川町平均は上昇傾向を示し、埼玉県平均に並び、全国平均を超えた。
- ③20年度以降23年度までは低めに推移していたが、24年度に上昇。
- ④その後25年度以降は改善している。
- ⑤焼却場に近い東小川小学校は、八和田小学校とともに19年度の冬に高かった。
- ⑥みどりが丘小学校も他と同程度の時が多いのに測定をやめたのは何故か。

出典：小川町役場 環境保全課、埼玉県データ、環境省データより作成

市民による監視活動で大切なこと！

- ①発生源：事業者側の出している情報
 - A. 廃棄物の受入量、処理量、内訳など
 - I. 自主測定結果（ダイオキシン類、その他）
 - ②行政が公表している情報
 - A. 行政による発生源の監視情報
 - I. 行政による発生源周辺の環境監視情報
(埼玉県による測定、自治体による測定)
 - ③常に最新の情報をチェックする
 - ④公表されている数値を鵜呑みにしない。

1.大気中のダイオキシン類濃度測定結果

大気中のダイオキシン類濃度測定結果
【環境基準値0.6pg-TEQ/立方メートル(年平均値)】

深谷市内一般環境	
地点名	測定値
八喜小学校(下手計地内)	0.042
岡部総合支所(岡地内)	0.028
花園保健センター(小町田地内)	0.025
深谷清瀬センター周辺	
中通り自治会館(帯根地内)	0.031
榎引康部自治会館(榎引地内)	0.028
熊谷工業団地周辺	
折之口産業排水センター(折之口地内)	0.084
ひがし公園(上紫軍7丁目地内)	0.034
中折之口公園(折之口地内)	0.083
瀬山集会所(瀬山地内)	0.038

中折之口公園は工業専用地域内にあるため、環境基準は適用されません。
単位:pg(1ピコグラム=1兆分の1)×TEQ/立方メートル
年4回測定した平均値

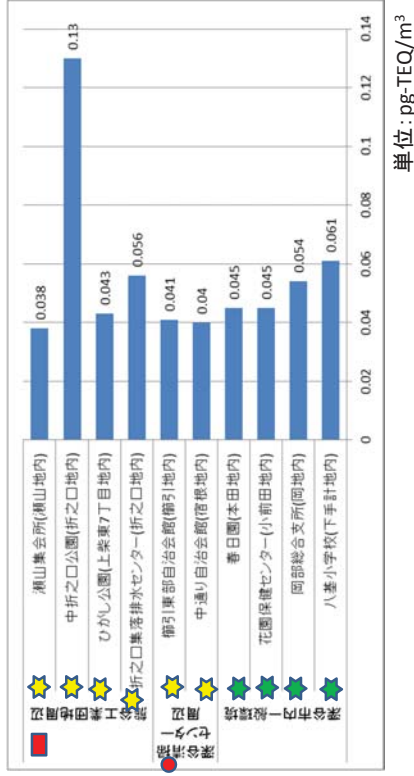
深谷市の大気中ダイオキシン類 濃度測定結果 ホームページでの表示

<http://www.city.fukaya.saitama.lg/soshiki/kankyo/sudo/kankyo/tanto/kankyo/oshirase/1447202619148.html#3>

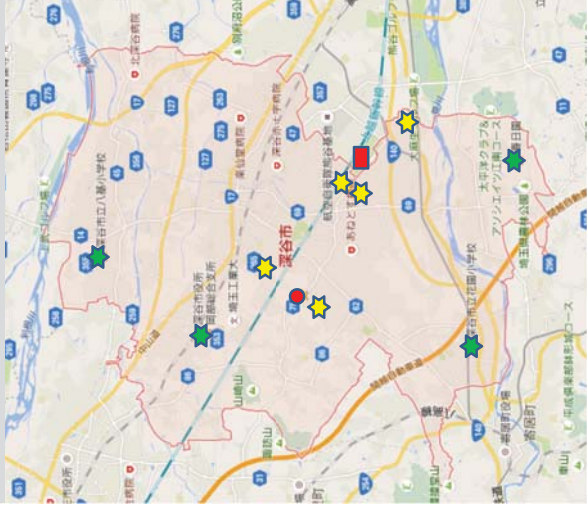
測定結果は、わかりやすくホームページに掲載しています。

何のためにどこで測定しているか。

深谷市内の大気中ダイオキシンの濃度



深谷市の測定地点を地図に示したもの



行政の調査データ・情報の入手と利用

- 1) すぐにわかるように整理されているか。
 - 一分かりやすい情報の整理と提供、親切に。
 - 一たらい回しをしない、どこにあるかすぐにわかる
- 2) 請求すればすぐに入手できるか。
 - 一時間を掛けない。たらい回しをしない。
 - 一高額な費用が発生しない。
- 3) 生データが開示されているか。
 - 一時系列に整理されているか
 - 一過去のデータも提供可能か
 - 一同時に、わかりやすく加工・解説されているか。
- 4) 同時に、わかりやすく加工・解説されているか。
 - 一グラフ化や図示、解説があるか
- 5) 情報はできるだけ早く提供する。
 - 一可能な限り最新の情報を提供しているか。
- 6) 適切な評価が行われているか。
 - 一規制基準や環境基準の達成状況など
- 7) 相对比较ができるような情報提供がなされているか。

行政の調査データ・情報の活用 — 地域の病状を診断し処方箋を考えるために —

- ① 実態を知る (病状を知る)
- ② 原因を究明する
- ③ 町や県の政策を点検する
- ④ コミュニケーションを図る (市民の連携)
- ⑤ 闘う市民の貴重なデータに
- ⑥ 環境教育の一環として広げられる
- ⑦ 政策提言ができる市民へ

市民＝納税者としての意識を高め、権利を守り、そして義務を果たすため、情報は鵜呑みにせず疑問を持つ！

自ら取りに行く！自ら調査する！幅広い意見を聴く！みんなで考える！

そして 行動する。役所や議員を動かす！